

平成 17 年度新規採択事業 評価調書

(平成 16 年度 新規採択時評価実施)

事業の概要

事業名	道路事業 (主) 京都広河原美山線 二ノ瀬バイパス		
事業区間	自：京都市左京区静市野中町 至：京都市左京区鞍馬本町	延長、幅員又は面積	延長 L = 1.9 km 幅員 W = 7.5 m
総事業費	C = 4,500 百万円	完成予定年度	平成 26 年度
事業概要 (目的・内容等)	本路線は、北部地域と市街地を結ぶ主要な幹線道路であるとともに、鞍馬、貴船といった観光地へのアクセス道路の機能も有している。しかし当該箇所は、狭い地形の中で幅員狭小の現道に人家が連続しており、早急な整備が必要であるが、その状況から現道を拡幅することは難しい。そのためバイパスによる道路整備を行い、交通の分散を図り、安全で快適な通行を確保するものである。		
箇所図			

事業を巡る社会経済情勢等

社会背景と 今後の動向	平成 7 年以降、入洛観光客数が年々増加しており、平成 5 年度にオープンした花背山の家は（本路線が市中心部からの主なアクセス道路となっている。）、年間 5 万人近い利用者がある。また、平成 9 年 3 月に企画調整局が実施した京都市休日交通体系調査によると、鞍馬方面への観光客の交通に対する意見では、渋滞、道路の狭さ、公共交通機関の容量不足に対するものが目立つ。 以上より、観光増進の観点からも整備が必要である。
市民ニーズ	現道の状況及び地元からの要望を受け、市民とのパートナーシップを基本に市民参加により計画策定作業を進めるため、平成 13 年度に地元住民代表とともにバイパス検討委員会を設立し計画策定を進めている。この委員会の設立準備会において地域住民に対しバイパスについてのアンケート調査を行った。アンケートの回収率は鞍馬地区は 90% 近く回収されており、約 80% の方がバイパスに「通過交通を迂回させることによる交通問題の改善」を求めている。

上位計画から見た事業の有効性

京都市基本計画		事業ごとの上位計画	具体的な効果と受益者
大項目	小項目		
□安らぎのある暮らし ■華やぎのあるまち □市民との厚い信頼関係の構築をめざして	市民のくらしとまちを支える基盤づくり	道路の整備に関するプログラム	・北部地域と市中心部の安全な通行の確保による地域振興及び防災機能強化（左京区北部地域住民） ・道路の機能分化による渋滞等地域の交通問題の改善（地元住民・来訪者） ・鞍馬・貴船・花背山の家へのアクセス強化による観光・利用促進（観光客等）

事業の要件

環境景観への配慮事項	本事業箇所は、京都市自然風景保全条例による、第一種自然風景保全地区の中にあり、一部トンネルとしたバイパスにより切土法面や街並みの改変を抑制し、街並み・景観の保全を図っている。
市民と行政のパートナーシップ	市民参加により計画策定作業を進めるため、平成 13 年度に地元の住民代表とともにバイパス検討委員会を設立し、地域住民を対象にアンケート調査を行うなど、市民参加により計画策定を進めている。

事業の評価結果

評価	A
理由	本路線は、左京区北部地域と市中心部を結ぶ最短経路であるとともに、緊急輸送道路である国道 3 6 7 号線の代替路の機能も持っており防災上も整備の必要性が高い。 また、主要な観光地である鞍馬・貴船や、年間 5 万人近い利用者がある花背山の家へのアクセス道路でもあり交通需要、生活道路との機能分化の観点からも整備が必要である。

評価指標の算定結果

費用便益比（C B R）	B／C＝1． 5 7
--------------	------------

事業の必要性

評価軸	評価項目	評価指標
誰もが安心して暮らせるまちづくり	環境への負担の少ない持続可能なまちをつくる	■対象道路の整備により自動車からのCO2排出量が削減される ■現道等における自動車からのNO2排出量が削減される ■現道等における自動車からのSPM排出量が削減される
	災害に強く日々のくらしの場を安全にする	■緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替道路を形成する ■現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくは架替の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消される ■現道等の異常気象時規制区間、事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬季交通障害区間を解消する
	日常生活における身近な安全や安心を確保する	■二次医療施設へのアクセス向上が見込まれる
	歩いて楽しいまちをつくる	■周辺の自然・景観との調和を保っている
活力あるまちづくり	魅力ある観光を創造する	■観光地・レクリエーション基地と交通拠点間とのアクセスを向上させる ■主要観光地間相互の到達時間の短縮に寄与する
市民のくらしを支えるまちづくり	個性と魅力あるまちづくり	■現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する ■市役所・区役所へのアクセス向上が見込まれる ■主要集落と区役所間の所用時間が30分をこえる
市民のくらしを支える基盤づくり	多様な都市活動を支える交通基盤づくり	■現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する又は新たなバス路線が期待できる ■道路の整備に関するプログラム又は都市計画道路整備プログラムに位置づけられている
市民の知恵と創造性を生かした政策を形成する		■審議会、委員会を通じ地元意見を反映させ事業を進めている ■計画段階から市民参加により事業を進めている